

シラバス 2015

3 年生進学文系用



鹿児島県立財部高等学校

はじめに

校長 原口 和哉

本校は、地域・保護者の信頼と生徒の期待に応え、生徒一人一人の希望する進路が高いレベルで実現できるように、基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立をめざしています。具体的には、英語・数学における少人数での習熟度別授業、放課後の個別指導、各種検定試験、生徒による授業評価などを進めています。

今回「財部高校シラバス 2015」をお届けしますが、内容は各学年の学習内容・年間計画・学習の視点・学習の達成目標（到達度）・評価の観点や方法などについて記されています。年間授業計画（シラバス）発行の目的は、生徒の学習意欲を高め、真剣に授業に取り組む姿勢を形成することにあります。生徒が主体的に学習に取り組むことによって自身の将来をしっかりと設計することができるようになることを期待しているのです。

つまり、生涯学習の基礎を完成する財部高校の3年間で「いつ」「何を」「どういう目的で」「どのように」学ぶのかを示し、それを生徒の皆さんにしっかりと理解してもらって、学びの効果を上げたいというねらいで作ったのがこのシラバスです。

本校における年間授業計画（シラバス）は、当初学力向上をめざして組織的に計画的な授業を進めるための職員の手引書として平成15年度にスタートしましたが、生徒を取り巻く社会の変化に伴い平成17年度からは生徒にも配付し、教師と生徒の双方向での有効活用をめざしてきました。平成20年度からは保護者の皆さんにも配付してまいりました。一昨年度より、保護者の皆さんへはホームページにて閲覧していただき、積極的に年間授業計画（シラバス）を活用してもらうことによって、本校教育に一層の理解と協力をいただきたいと考えております。本校の授業内容そのものに関心を深めてもらうことにより、親子や保護者同士のコミュニケーションが深まり、家庭と学校が連携して「生徒の家庭学習の習慣化」を一層図ることができることを期待するからです。

まだまだ満足すべきものではないと思いますが、まぎれもなくここには本校教職員の真剣に授業に向かっていく姿勢が反映されています。今後とも随時、年間授業計画（シラバス）の改善を進めていく決意です。多くの関係者の方々に以上のことをご理解していただいた上で、忌憚のないご教示やご意見をいただけますことを願っております。

2015年度 シラバス 教科（国語）

教科の目標	人間は、「言葉」を通して形にしながら「考え」、「感じる」生き物です。ですから、自分自身の内面を作り上げ、あるいは、他者との交流を図り、社会的・文化的活動を楽しむ上で、「言葉についての学習」は最も重要です。とりわけ、母語としての日本語について、「表現する力」、「理解する力」、「伝え合う力」を高めることは、私たちがいきいきと生きることに直接つながります。3年間の学習を通して、これらの力を身につけていくことが教科の目標です。		
科目・履修学年・単位	国語表現	2・3 学年	4単位（情報）
	現代文 A	2学年	2単位（共通）
	古典 A	2学年	2単位（進学）
	現代文 B	3学年	4単位（共通）
	古典 B	3学年	3単位（進学）
科目の目標	国語表現	進んで表現し、また、他者の表現を受け止める態度を養い、「伝え合う力」を高め、言語感覚を磨いて社会生活を充実させる態度を養います。	
	現代文 A 現代文 B	明治時代以降の様々な文章を読む能力を高め、進んで読書する態度を養います。	
	古典 A 古典 B	古文や漢文を読み、ものの見方・考え方を広くし、古典に親しみ人生を豊かにする態度を養います。	

学習方法・留意点	1. 授業第一です。授業では次のことを心がけましょう。 ① 教科書，ノート，副教材などを忘れない。 ② 先生の指示（「読もう」「書こう」「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」）にまじめに取り組む。 ③ 板書をノートに書き写す。 2. 高校の授業の進め方は速く感じられます。家庭学習については次のことを心がけましょう。 ① 課題が出されたらそれに取り組み，期日厳守で提出する。 ② 現代文教材については，繰り返し読み，読めない字・書けない字・意味の分からない語を辞書で調べ，覚えることが予習です。また，授業のノートを読み直すことが復習です。 ③ 古文・漢文教材については，音読し，本文をノートに書き写し，意味のわからない語を辞書で調べ，覚えることが予習です。また，授業のノートを読み直すことが復習です。 ④ 学校で行われる小テスト・定期テスト・実力テスト・課題テスト等には出題範囲がありますから，そこを勉強してから受験してください。
評価方法	評価は，5つの評価の観点を踏まえ，具体的には定期試験に平常点（課題・ノート・小テスト・授業での取り組みの姿勢等）を加味して行います。各学期末に，それらを総合した評点が算出されます。その評点を更に3学期分で平均して，学年末には評価（5・4・3・2・1の絶対評価）が決定します。すなわち，「今は手を抜いて後で取り戻そう」というのは困難です。常日頃の学習を大切にしましょう。
単位認定と 追試験	高校では単位を取得することで進級や卒業ができます。各学期末に，このままでは単位認定が難しいと判断された場合，一度だけ追試験を行います。そこで合格するとその学期の欠点としての扱いは学年末に持ち越されることはありません。またそこで合格できない場合には，保護者にその旨を伝えるためにご来校いただくことになります。

評価のポイント 「評価の観点」との相関は次のとおりです。

教材	評価のポイント	評価の観点
評論	1 語句・語彙・漢字を理解し、身につけているか。	C D E
	2 論理の筋道を読み取ることができるか。	D E
	3 発問に対し、的確な言葉で自分の考えを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B E
	4 筆者の主張を的確に要約し、記述できるか	A C D
	5 筆者の主張を受けて思考を深化できるか。	A D
小説 随想 詩歌	1 語句・語彙・漢字を理解し、身につけているか。	C D E
	2 作品を味わい、感想を持つことができるか。	A B D
	3 人物の心情を理解し、そのことについて口頭で発表ができるか。	A B
	4 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
	5 作品について深く考え、書評を書くことができるか。また、読書に親しむことができるか。	A C D E
古文	1 大きな声で滑らかにリズムカルに音読できるか。	B D E
	2 基礎的な古文単語・古典文法を理解し、身につけているか。	E
	3 的確に現代語訳できるか。	A C D E
	4 作品の展開に沿って内容を理解できるか。	A D E
	5 登場人物の人柄・心情を理解し、それを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B D
	6 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
漢文	1 訓点にしたがって、大きな声で滑らかにリズムカルに音読できるか。	B D E
	2 語彙・漢文句法を理解し、身につけているか。	E
	3 的確に現代語訳できるか。	A C D E
	4 作品の展開に沿って内容を理解できるか。	A D E
	5 登場人物の人柄・心情を理解し、それを口頭で発表できるか。また、人の発表を理解できるか。	A B D
	6 作品の主題についての考えを表現することができるか。	A C D E
表現	1 自分の思いや考えを、効果的に口頭で表現できるか。	A B
	2 自分の思いや考えを、効果的に文章に書くことができるか。	A C
	3 情報を収集整理し、正確・簡潔に文章にまとめられるか。	A C D
	4 目的や場所に応じて、言葉遣いや文体を工夫できるか。	A C E
	5 語句・語彙の成り立ちや意味を理解し、身につけられるか。	A E

評価の観点

A	関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
B	話す・聞く	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。
C	書く	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて的確に文章を書く。
D	読む	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
E	知識・理解	表現と理解に役立てるための、音声・文法・語句・漢字等を理解し、知識を身につけている。

シラバス

教科・領域【 国 語 】

科目【 現 代 文 B 】

単位数	4 単位	学科・コース	普通科 全コース	学年	第 3 学年	区分	必須
-----	------	--------	----------	----	--------	----	----

年間の学習計画等

学期	単元	教材	学習内容
一学期	随想一	待つということ	・異文化とのふれあいについて書かれた文章を読んで、人々との関わりについて考えを深める。
	随想一	春	・人間と自然との関係について考えを深める。 ・文章の構成に着目して要旨を捉える。
	小説一	水かまきり	・登場人物の微妙な心の移り変わりを読み味わう。 ・小説における擬声語などの表現技法について理解を深める。
	小説一	神様捜索隊	・「神様捜索隊」のツアーにまつわるそれぞれの人物の様子から、人間どうしのつながりや幸せについて考える。
	評論一	コンコルドの誤り	・人間がその行動や思考において「進化」から外れた「誤り」を犯すことについて考える。
	評論一	創造する力	・人間とは何か、チンパンジーと比較することで見いだせる、人間の特徴を考える。
	実用の文章 1	手紙とメール	・手紙文とコンピューターや携帯電話でのメールの文章とを比較しながら、それぞれの文の形式や書き方を身につける。
二学期	詩	汚れつちまつた悲しみに…	・「悲しみ」とは何なのか、想像をめぐらせながら繰り返し音読し、詩を深く味わう。
	詩	耳の秋	・この詩でうたわれている情景を想像し、「耳の記憶」とは何かを考える。
	詩	未確認飛行物体	・空を飛ぶ薬缶や、砂漠に咲く花の様子を想像しながら読み、この詩のおもしろさを味わう。
	短歌	ただ一枚の絵はがき 短歌十二首	・繰り返し音読してリズムを味わい、短歌に描かれた情景や心情を豊かに想像する。
	随想二	前の駅出ました	・日常生活の中での「視点の切り替え」の重要性について考えを深める。
	随想二	ズルい言葉「してあげる」	・日常の言葉遣いに着目し、言葉の使い方について考えを深める。
	小説二	ナイン	・社会の変容に伴う人間関係の変化と、時代を超えた信頼や友情について考えを深める。
	小説二	芋ようかん	・揺れ動く人間模様をとらえて、「物作り」や「商売」が直面する問題について考えを深める。
三学期	評論二	持たないという豊かさ	・真の豊かさとは何であり、それを手に入れるためにはどうすればよいのか考える。
	評論二	「自己」について考えること	・「批判」「批評」「自己ルール」などの言葉を手がかりに、「自己」をどのように捉えるか、考えを深める。
	小説三	こころ	・「私」の心情・思考を読み取り、人間の心や孤独、通じ合うことなどについて考えを深める。
	実用の文章 2	本の広告を作ろう	・相手や目的に合った情報について考えを深める。

シラバス

教科・領域【 国 語 】

科目【 古 典 B 】

単位数	3単位	学科・コース	普通科 進学コース	学年	第3学年	区分	必須
-----	-----	--------	-----------	----	------	----	----

年間の学習計画等

学期	単元	教材	学習内容
一学期	(古) 古文に親しむ — 説話	今昔物語集 御伽草子 竹取物語	・ 古文と現代とのつながりについて考え、古文の世界に関心を深める。 ・ 古典文法や古語について確認する。
	(漢) 動物の寓話 — 故事成語	漁夫之利 借虎威 朝三暮四 蛇足	・ 漢文訓読の決まりや表現の特色について確認する。 ・ 故事成語の生まれた背景を知り、漢文の世界に関心を深める。
	(古) 笑いと思案 — 随想	徒然草	・ 古文のきまりや表現の特色を確認する。 ・ 随筆を読み、古人の笑いや思案を理解する。
	(漢) 叙情のしらべ — 漢詩	絶句 贈別 題自画 送友人 秋興	・ 音読することで、漢詩のリズムを味わう。 ・ 漢詩の表現の特色について理解する。
	(古) 人がうたうとき — 歌の物語	伊勢物語 今物語	・ 古人の生活の中で、和歌がどのような役割を果たしていたのかを理解する。 ・ 物語の展開をふまえて、歌に込められた思いを読み取る。
二学期	(古) 都への思い — 日記	土佐日記 更級日記	・ 日記文学の歴史や特色について理解する。 ・ 日記を読み、平安時代の旅の様子について考える。
	(漢) 英雄の物語 — 『史記』	鴻門の会	・ 壮大な歴史物語を読み、その描かれた人物像を読み取る。 ・ 『史記』の優れた文章表現について理解する。
	(古) いくさと人間 — 軍記物語	平家物語 義経記	・ 音読し、特色ある表現やリズムを味わう。 ・ 戦乱の時代も変わらぬ人間の心情を読み取る。
	(漢) 人間の本質 — 儒家の思想	君子、食無求飽 質勝文則野 子路問君子 居天下之広居 不忍人之心 人之性悪	・ 儒家の思想に触れ、その特徴について理解する。 ・ 人間の生き方やあり方について、自分の考えを深める。
	(古) 恋のうた — 和歌	百人一首の恋の歌	・ 和歌に込められた作者の思いを読み味わう。 ・ 音読し、和歌のリズムを感じる。
三学期	(漢) 理想の世界 — 物語	桃花源記 古譚	・ 中国文学の名作を読み、物語の展開を読み取る。
	(古) 愛の行方 — 浮世草子・浄瑠璃	好色五人女 曾根崎心中	・ 江戸時代の作品を読み、人々の愛の姿に触れる。 ・ 古典芸能について理解する

平成26年度 地理歴史科（日本史A）シラバス

単位数	2単位	学年・コース	第3学年 進学文系	区分	必修・選択
使用教科書・副教材 現代の日本史（山川出版社）					
学習目標	現在、日本においてはいろいろな分野で国際化が強くなっている。高校教育の目標である、「国際社会に生きる資質」を養うためには祖先がいかなる時代状況の中で、何を考え、どのようにして自分たちの社会や文化をつくりあげてきたのか、その歴史を深く学び、慎重に考察を加えていくことが重要である。近現代の日本史は、世界各国との結びつきが緊密であり、影響は今日の私たちの生活に直接かかわってきている。「国際社会の中の日本」という立場を常に念頭に置きながら、広い視野に立って近現代の日本の歩みを十分に理解し、生徒が21世紀を迎えてさらに歴史に新しい興味と関心を持てるようになることを期したい。				
月	学習事項	学習到達目標			
4	第1章 開国と維新	①1840年にはアヘン戦争なども行われるなど、19世紀以降にヨーロッパの帝国主義の動きがアジアまで至るようになったことを理解する。 ②アメリカの開国要求とそれをめぐって江戸幕府が揺れた様子を理解する。 ③江戸幕府という政権体が崩壊していく過程を理解する。 ④明治新政府のとった一連の政策について概要を理解する。 ⑤明治新政府内の対立から旧士族反乱がおこり、1877年の西南戦争で一区切りがついたことを理解する。			
5	第2章 近代国家の形成と発展	①旧士族反乱がおさまった後、明治新政府の政策に反感を抱く者たちがおこした自由民権運動について理解する。 ②自由民権運動をうけて大日本帝国憲法と帝国議会の開設される過程を理解する。 ③明治以降のアジア諸国と日本との関係について把握する。 ④幕末に日本が結んだ不平等条約が改正されるまでの過程について把握する。 ⑤日清戦争について、始まる原因・背景・経過・戦後処理 その後の影響までを理解する。 ⑥日清・日露戦争前後における日本国内の政権争いの構造について理解する。 ⑦日露戦争について、始まる原因・原因・経過・戦後処理 のその後の影響までを理解する。 ⑧日露戦争勝利により、日本が世界の先進国への仲間入りを果たしたことと、日本人たちにもたらした影響について考察する。			
6	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	①1880年代以降に日本に起こった産業革命（企業勃興）の状況を理解する。 ②資本主義の特色について理解して、深く考察する。 ③社会問題の根本的な定義を理解し、さらにその原因・経過・処理などについて追及する。 ④現在の私たちに多大な影響を与えている大衆生活・文化についての意義を知る。			
7	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	①第一次大戦前後の日本の様子や、世界各国の概況について知る。 ②大正デモクラシーの経過・雰囲気を知り、本格的な政党政治が始まるまでの過程を学ぶ。 ③ワシントン体制による国際協調・軍縮の展開について理解する。 ④本格的な政党政治が成立した時期の概況を理解する。 ⑤大正・昭和初期の一般市民の生活の様子や大衆文化などの諸問題・様子について理解する。			

9	第5章 第二次世界大戦と日本	①昭和恐慌とそれが与えた政治的な影響、そして軍国主義へと導かれるようになっていく背景・原因を理解する。 ②満州事変をきっかけとして日本は国際連盟を脱退し、国際的に孤立化していくが、その様子を理解する。 ③5・15事件で軍部が日本国内の政権を実質的に奪い取った事について理解する。 ④日中戦争・第二次大戦・太平洋戦争のおこった原因・経過・戦後処理・そして与えた影響について考察する。
10	第6章 占領下の日本	①太平洋戦後のGHQによる日本民主化政策について理解する。 ②冷戦の構造がはっきりしてくるにつれて、日本が「逆行コース」の流れに陥ってきたことを理解する。またその政策の一部として1951年サンフランシスコ平和条約があることを理解する。
11	第7章 日本の自立と経済成長	①55年体制について理解する。 ②1950～1970年代における日本の概況と高度経済成長の実情を理解する。
12	第8章 現代の世界と日本	①1970年代以降の日本の経済状態を理解する。 ②冷戦が終結したことによる影響を理解する。 ③1990～2010年における日本の概況を理解する。 ④国際社会の中にある日本の位置づけを再考察する。
1	問題演習	演習を通じて歴史的考え方を身につける。

評価の観点と趣旨及び評価方法

評価の観点と趣旨		評価方法
関心・意欲・態度	近現代史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に迫及するとともに、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	課題の提出状況 学習への参加状況
思考・判断・表現	近現代史の展開から課題を見い出し、世界的視野に立って多面的多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	授業での机間巡視 課題 考査
資料活用の技能	近現代史の展開に関する諸資料から有用な情報を読み取り、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その過程や結果を適切に表現している。	授業での机間巡視 課題 考査
知識・理解	近現代史の展開についての基本的な事柄を世界の出来事と関連付けて理解し、その知識を体系的に身に付けている。	授業での発問 小テスト 考査

平成26年度 地理歴史科（地理B）シラバス

単位数	3 単位	学年・コース	第 3 学年 情報・進学文系	区分	必修 ・選択
使用教科書・副教材		新詳地理 B （帝国書院） 新詳高等地図 （帝国書院）			
学習目標	現代社会において、各国の状況を正確に把握しその課題点をつかみ、自分なりに考察していく姿勢は今後の国際化社会を生きていく生徒達のまさに「生きる力」であるといえる。その力をはぐくむため地理では以下のことを重視して指導を行っていく。1 つ目は「現代世界の地理的事象を理解し、地理的見方や考え方ができるようにする」、2 つ目は「地誌的考察の視点を身につけ、地形図から情報を得ることができるようにする」、3 つ目は「地域の特色について理解し、その要因や今後の展望について自ら考察できる力を育む」である。				
月	学習事項		学習到達目標		
4 ～ 5	第Ⅱ部 世界の諸地域 3 章 人口、村落・都市		3 章 1. 人口分布と食料の偏在性の原因と解決に向けての取り組みについて考察する。 2. 日本における都市の形態・成立条件などを把握する。 3. 様々な要因によっておこる都市居住問題についての理解を深める。 4. 世界的な集落の形態・成立条件などについて基礎的な知識・概念を獲得する。 5. 世界的な都市の形態・成立条件などについて基礎的な知識・概念を獲得する。		
6 ～ 7	4 章 生活文化、民族・宗教		4 章 1. 世界各地の衣食住の現状についてイメージを持つ。 2. 衣食住と関わる社会環境である言語・宗教などについて基礎的知識を獲得し、理解を深める。 3. 日本における衣食住などの社会環境について把握する。 4. 人種・民族について理解し、民族を区分けする指標の 1 つである宗教について理解を深める。 5. 世界の民族・領土問題について、その原因を考察し、基礎的な知識を獲得する。 6. 日本の民族・領土問題について、どのような問題を抱えているのかを考察する。 7. 具体的事例を取り上げ、さまざまな民族・領土問題について考察する。 8. 民族の共生へ向けての課題について、多文化共生の視点から考察する。		

9 ～ 11	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1 章 現代世界の地域区分 2 章 現代世界の諸地域	1 章 地域区分図の見方についての基礎を理解する。 2 章 1. 東アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 2. 東南アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 3. インドの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 4. 西アジア・中央アジアの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 5. アフリカの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 6. ヨーロッパの自然・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 7. ロシアの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 8. アメリカの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。 9. オセアニアの自然・人種・農業・工業・社会・課題の現状について理解を深める。
12	3 章 現代世界と日本	3 章 1. 日本の環境・エネルギー問題について、どのような取り組みをしてきたかを把握する。 2. 環境・エネルギー問題の解決への取り組みについて、どのような考え方が必要かを把握する。
1	問題演習	演習を通じて地理的考え方を身につける。

評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	現代世界の各国の状況に関心をもつとともに、地理的事象の考察に積極的に活用して地理学的論拠に基づいて判断しようとする。	課題の提出状況 学習への参加状況
思考・判断・表現	現代世界の状況と課題を多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	授業での机間巡視 課題 考查
資料活用 の 技能	地理に関する諸資料から有用な情報を読み取り、表現したり処理したりできる技能を身に付けている。	授業での机間巡視 課題 考查
知識・理解	現代世界の地理的事象や各国の状況について体系的に理解し、その知識を身に付けている。	授業での発問 小テスト 考查

平成 27 年度 シ ラ バ ス 3 年 文系コース

教科・領域【 数学 】 科目【 数学Ⅱ・数学B 】

単位数	2 + 3 単位	学科・コース	普通科・文系コース	学年	第 3 学年	区分	必修・選択
-----	----------	--------	-----------	----	--------	----	-------

1 使用する主な教材等

☐	使用教科書，副教材等 新 数学Ⅱ（東京書籍）， ニューファースト 新 数学Ⅱ（東京書籍） 高校数学B（実教出版）， ステップアップノート 数学B（実教出版）
☐	授業等で配布するもの プリント

2 年間の学習計画等

学期	月	学 習 内 容	学習の達成目標	重要事項
1 学 期	4	< 数学Ⅱ > 第 5 章 微分法と積分法 第 1 節 微分法 1 平均変化率 2 微分係数 3 導関数 4 導関数の計算 5 接線	平均変化率を求められる。 微分係数を理解し，求められる。 導関数の定義を理解している。 導関数の計算ができる。	平均変化率 極限值 微分係数 導関数 微分する 接線 接点
	5	6 関数の増減 7 関数の極大値，極小値 8 関数の最大値，最小値 確認問題 第 2 節 積分法 1 不定積分 2 不定積分の計算	関数の増減を調べられる。 導関数を利用して，関数の極値および最大値・最小値を求められる。 不定積分の定義や性質を理解し，計算することができる。	増減表 極大 極小 極値 不定積分 積分する 積分定数
	6	3 定積分 4 定積分と面積 5 定積分の計算 確認問題 < 数学B > 第 1 章 ベクトル 第 1 節 平面上のベクトル 1 有向線分とベクトル 2 ベクトルの加法 3 ベクトルの減法	定積分の定義や性質を理解し，計算することができる。 ベクトルの向き，大きさについて理解している。	定積分 下端 上端 有向線分 ベクトル 逆ベクトル 零ベクトル
	7	4 ベクトルの実数倍 5 ベクトルの成分 6 ベクトルの成分と演算	ベクトルの成分について理解し，計算ができる。	基本ベクトル 成分
2 学 期	9	7 ベクトルの内積 8 ベクトルのなす角 9 内積の性質 10 位置ベクトル 11 ベクトルと図形 確認問題	内積を求められる。 位置ベクトルで表す公式を理解している。	内積 なす角 位置ベクトル
	10	第 2 節 空間のベクトル 1 空間の座標 2 空間ベクトル 3 空間ベクトルの成分 4 空間ベクトルの内積 確認問題	空間ベクトルの大きさと成分について理解している。 内積を求められる。	座標空間 空間ベクトル

3 学 期	11	第2章 数列 第1節 数列とその和 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	数列の定義について理解している。 公差，一般項を理解している。 公比，一般項を理解している。	数列 初項 末項 一般項 等差数列 公差 等比数列 公比
	12	6 和の記号 Σ 7 階差数列 確認問題	Σ の意味を理解し，利用できる。 階差数列の意味を理解している。	階差数列
	1	第2節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式と一般項 2 数学的帰納法 確認問題	漸化式の意味を理解している。 数学的帰納法の仕組みを理解している。	漸化式 数学的帰納法

3 評価の観点と趣旨及び評価方法

評 価 の 観 点 と 趣 旨		評 価 方 法
関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	課題の提出状況 学習への参加状況 朝課外の出欠状況
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	授業での机間巡視 課題 考査
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	授業での机間巡視 課題 考査
知識・理解	数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。	授業での発問 小テスト 考査

4 授業を受ける際の注意事項等

- ノートを確実にとり，授業に積極的に参加すること。
- 授業での質問は理解を深めるために必要であるので，不明な点など質問し，授業時間内での解決に努めること。
- 課題は自らの理解度を確かめるために行うもので，教科書や参考書を利用して確実にこなすこと。

理科【生物】

「生物」(301)	単位数	4 単位
	学科・学年・学級	普通科 第3学年2組 進学コース 選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。
使用教科書・副教材等	東京書籍「生物」（生物301） レッツトライノート生物 『生物』指導資料

2 学習計画及び評価方法等

学 期	学習内容 (Plus○ Column● Advance Plus◎)	月	学習のねらい	備 考 1 学習活動の特 記事項、他教科・総合的な学 習の時間・特別 活動等と関連等 2 副教材の使用 など	考 査 範 囲	評価の観点 のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	知 識 ・ 理 解
1 学 期	第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 (4) 細胞の観察 2章 生命現象を支えるタンパク質 (8) ●パーマネントウェーブのしくみ ○超好熱菌と酵素 カタラーゼのはたらき条件を調べる ●カタラーゼのはたらき 3章 代謝とエネルギー (8) コハク酸脱水素酵素の実験 「細菌の電子伝達系」 アルコール発酵の実験 「微生物の発酵を利用した食品」 「光の吸収と色素」 クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験 「光合成のしくみはどのように解明されてきたのだろうか」 グルタミン合成酵素の阻害実験 探究1 生物の酸素消費と呼吸商 (3)	4 <							

[illegible]

平成27年度 体育年間計画

鹿児島県立財部高等学校保健体育科

学年	4		5		6		7		9		10		11		12		1		2		3														
	週数		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10														
	単位																																		
3	1	体づくり運動 (8)				球技Ⅰ(8) (男:ソフトボール) (女:バレーボール)				体育理論 (2)		陸上Ⅰ(10) (リレー・投てき・跳躍)				球技Ⅱ(8) (男:バスケットボール) (女:バドミントン)				体育理論 (2)		陸上Ⅱ(8) (長距離走)				体育理論 (2)		球技Ⅲ(8) (男:サッカー) (女:バスケットボール)				武道・ダンス(14)			
	2																																		
学校行事等		全体オリエンテーション		体力テスト／登山		大隅地区大会		中間考査		県総体		文化祭		期末考査		体育祭		大隅地区新人大会		中間考査		県新人大会		長距離走大会		期末考査		卒業考査		卒業式・閉校式					

* 3年は2単位です。

シラバス

平成27年度版

教科【保健体育】 科目【体育】

学年	3年	学科	普通科	単位数	2単位	区分	必修
----	----	----	-----	-----	-----	----	----

1 学習内容及び到達目標

運動の合理的な実践を通して、生徒の心身の発達と体力の充実を図る。また、各種の運動技能を高め、健康・安全についての理解と協調性・責任感などの社会的態度の育成をする。

2 年間の学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考(体育的行事含む)
1	4	体づくり運動 (集団行動含む)	体力を高める運動や体ほぐしの運動を実践することで、全面的な体づくりを行い運動を計画的に実践する資質や能力を養う。また、集団としての行動を秩序正しく安全で効率的に行う。	新体力テスト ラジオ体操(第2) 登山
	5	球技Ⅰ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	男子:ソフトボール 女子:バレーボール
	6			
	7~9	陸上競技 (リレー・投てき・跳躍)	仲間とお互いに助言などを行い、協力しながら目標記録をめざすことにより、走力などを高め、競走を楽しむことができる。	クラスマッチ
2	9 下旬~ 10	球技Ⅱ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	体育祭 男子:バスケットボール 女子:バドミントン
	11	陸上競技 (長距離走)	自己の能力に適した目標を設定し、主体的に取り組むことができる。	長距離走大会
3	12 ~1	球技Ⅲ	種目の特性及びルールを知り、チームの課題や自己の能力に応じて練習の内容や方法を工夫し、運動技能を高めることができるようにする。また、健康・安全に留意して練習などを行うことができる。	男子:サッカー 女子:バスケットボール
	2~ 3	武道・ダンス	武道における伝統文化の一つである礼儀作法を守り、相手を尊重する態度を養い、様々な基本動作を身につけ、安全に実施することができる。 ダンスの特性を知り全身で表現する楽しさや喜びを味わうことができる。	武道は柔道 (男女選択可) ダンスは男女選択可

3 学期及び各単元毎の学習状況の評価方法

全体:授業への参加状況及び意欲・関心・態度
 体づくり運動:取り組み状況及び動作の理解
 球技:個人・チームの課題解決のための取り組みや個人スキル、ゲームへの取り組み
 陸上競技:自己の能力に応じた目標達成度、取り組み状況
 武道:基本動作の修得状況 学習課題への取り組み状況安全面への配慮
 ダンス:基本的な動作の習得と全身で表現できているか
 体育理論:各単元の始めにおいて、ルールや運動課題、歴史などを説明し、テストを行う。

4 年間の学習状況の評価

- 授業の準備や練習、後片付けなどを積極的に取り組めたか。(態度)
- 健康・安全に留意して運動に親しみ、運動の楽しさや喜びを味わいながら技能を高められたか。(技能)
- ルールやマナーを守り、協力・公正・責任など態度を身につけ練習やゲームに取り組んだか。(態度)

5 評価の観点と趣旨及び評価方法・視点

評価の観点と趣旨		評価方法・視点
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで運動をし、意欲的に学習に励もうとする。また、健康・安全に運動を行う態度を身につけている。	・意欲的に取り組んでいるか観察 ・安全面への配慮ができていないか観察
思考・判断	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の行い方を身につけている。	・練習内容の工夫や作戦などの組み立て ・運動課題を解決するための工夫 ・上記を記入した学習ノート
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の行い方を身につけている。	・スキルテスト及び観察 ・ゲーム中の集団技能を観察
知識・理解	運動やスポーツの意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を身につけている。	・ルールや試合の実施方法の理解 ・運動の行い方の理解

6 授業を受ける際の注意事項など

授業前	・雨天時などで活動場所が変更になりそうときは体育委員が確認に来ること ・授業の用具等の準備等は全員で協力して行う。 ・服装等を整える。(靴・靴下の色、シャツなどの乱れ、短パンのはき方など) ・見学の際は事前に連絡し、着替えができる場合は体育服で見学を行う。 ・遅刻しない。チャイムが鳴ると同時に整列して待つ。ある一定の時間が過ぎて遅刻した場合、欠課となることもある。 ・欠席しない。単位が出せない。
授業中	・説明を聴く際は体育座りとし、静かに聞く。質問・確認等は説明後にする。 ・指示されたことを機械的に実行するのではなく、考えて体を動かすなど主体的に取り組むこと。 ・補強や練習の際に悪ふざけなどせず、安全に注意して積極的に運動を行う。
授業後	・道具は個数を確認し、元の場所に置く。 ・用具等の後片付けは全員で協力して行う。 ・速やかに着替えて次の授業に備える

教 科	英 語	科 目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4単位	区 分	選択必修	対 象	3年進学コース
-----	-----	-----	--------------	-----	-----	-----	------	-----	---------

・コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから引き続き、幅広い日常的な話題(自分自身・家族・友人や学校・世界の出来事など)について、相手の発信した英語を理解し、また自分の考えなどを積極的に発信する態度・英語力を養う。

・場面や目的に応じて、主体的に英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりして、自発的・積極的にコミュニケーション活動に取り組む態度を育てる。

Vivid English CommunicationⅢ (第一学習社)	改訂新版英作基本文例600 (啓隆社)
ニュービクトリアンカー英和辞典 (学研)	その他読み物

[illegible]

4 2学期の学習計画等

月	学習内容	学習のねらい	備考	考查範囲	自己評価				
					1	2	3	4	
9	Lesson 5 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?	携帯電話のリサイクルとアフリカのゴリラにはどのような関係があるのだろうか。関係がないと思われることも実は大いに関係がある。みんなで考えてみよう。 It is said that …／比較級＋and＋比較級	課題考查	二学期中間 英検					
10	Lesson 6 Gagaku, the Music of the Universe	東儀秀樹さんの日本と日本文化に対する考え方と、彼が演奏する雅楽の魅力とは。彼の演奏は人々をどのような気持ちにするのか。 分詞構文(完了形)／関係副詞の非制限用法	英検						
11	Lesson 7 Etymology: Wonders of Words	いくつかの語を例に、語の起源にまつわる興味深い話を読もう。語とはどのように変化しているのだろうか。 文修飾副詞／準否定語							
12	Lesson 8 A Lesson from Steve Jobs' Life	2011 年に他界したスティーブ・ジョブズの生き様は、私たちに何を教えてくれるだろうか。 more A than B／強調構文							
課題・提出物等		1学期に同じ	自己評価の該当する欄に○印をつける。 1学期に同じ						
2学期の学習状況 評価方法		1学期に同じ							

5 3学期の学習計画等

月	学習内容	学習のねらい	備考	考查範囲	自己評価			
					1	2	3	4
1	Lesson 9 Water: The Biggest Problem in the Century	貴重な資源である水が危機的な状況にある。世界の水危機に対して、私たちは何をすべきだろうか。 未来のことを表す仮定法／if it were not for … [if it had not been for …]	課題考查 <					

6 評価の観点の趣旨

A	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。
B	表現の能力	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、聞いたりして表現することができるか。

C	理解の能力	日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解することができるか。
D	言語や文化についての知識・理解	日常的な話題についての英語学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけると共に、その背景にある文化などを理解しているか。

7 評価のポイント

1 リズムやイントネーションに気をつけながら音読することができるか。	B C D
2 辞書に慣れ親しみ、疑問を解決するために積極的に活用しているか。	A C
3 単語や熟語・英文法を理解し、身につけているか。	B C D
4 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解することができるか。	A C
5 英語を用いた発問に対して、適切に応答することができるか。	A B C
6 異なる文化や考えを理解し、尊重しようと努めることができるか。	A C D

8 学習上の留意点

①予習について

英語の授業は、予習を前提に進めていきます。授業の前に必ず本文に目を通し、未知の単語の意味を調べておきましょう。また、本文をノートに写し、重要表現やイディオムをチェックし、日本語訳を考えておいてください。

②授業について

予習をしっかりとしていれば、授業は復習の場となります。授業では自分の日本語訳を確認し、分からなかった箇所や間違っていた箇所はしっかりと添削しておきましょう。

③復習について

習ったことはその日のうちに復習します。内容を確実に理解できたら、スラスラと読めるようになるまで声に出して音読するように心がけましょう。単語、イディオムも覚えます。十分に復習がなされていれば、英語の学力は定着し、考査前にあわてることもありません。予習・復習で毎日一時間は英語の勉強時間を確保してください。

④課題について

平日、または休日に出された課題は必ず提出期限を守って提出してください。

⑤辞書を読む

単語の意味を調べるためだけに辞書を使うのではなく、例文や語法の説明を読むことが大切です。

⑥授業以外の英語学習

テレビや雑誌、インターネット上など身の回りに英語学習の教材はあふれています。またALTとの会話は生きた英語や異文化に触れる絶好の学習チャンスです。積極的に話しかけてください。

9 終わりに

高校1・2年生では、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱを通して、単語・熟語・英文法だけでなく、日常的な英語を使った実践的コミュニケーションや異なる文化に関する自分の考えや意見を伝える能力、相手の意見を聞く能力を磨いてきました。高校3年生では、さらにステップアップしたコミュニケーション英語Ⅲにおいて、コミュニケーション能力、表現能力、理解力を磨き、言語や文化についての理解を深めていきます。国際社会と言われる現代でより活躍できる人材になれるよう努力を重ねてください。進学または就職試験にあたって、英語という教科の重要性は言うまでもありません。英語力の向上は、高校卒業後の進路決定に大きな影響を与えます。来年度を見据えて、継続的に学習に取り組みしましょう。

平成27年度 財部高等学校 シラバス

教科	英語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	3単位	区分	必修	対象	3年進学文系
----	----	----	-------	-----	-----	----	----	----	--------

1 学習到達目標

- ・学校生活や日常生活に関係した身近な場面や話題について、自分の意見や考え、体験などをおりませながら、既習の言語材料を活用して英語で描写できるようになる。
- ・情報を集めたり加工したりしながら、場面や目的に応じて創造的に書く能力を身につける。
- ・スピーチの原稿、日記、エッセイ、Eメール、調査報告書などの具体的なタスクを通じて、英語で書く能力を活用して実践的なコミュニケーション活動ができるようになる。

2 使用する主な教材等

Vivid English Expression Ⅱ (第一学習社) 改訂新版英作基本文例600 (啓隆社)
 ニューアンカー英和辞典 (学研)

3 1学期の学習計画等

月	単元・教材名	学習内容(学習のねらい)	備考	考查範囲	自己評価			
					1	2	3	4
4	ガイダンス	・英語表現Ⅱの特徴と学習方法について理解する。						
4	Lesson 1 Enjoying My School Life	・学校生活について述べている文章を学習する。 [文法] 現在形, 過去形, 現在[過去]進行形 未来を表す表現	課題考查	一学期期末考查				
	Lesson 2 I've Lived Here All My Life.	・日常生活・交際について述べている文章を学習する。 [文法] 現在完了形のまとめ 現在完了進行形						
5	Lesson 3 I Want to Hear Your Performance.	・芸術・音楽について述べている文章を学習する。 [文法] 過去完了形, 過去完了進行形 未来進行形, 未来完了形	英検					
	Lesson 4 I Like Shopping.	・買い物について述べている文章を学習する。 [文法] 助動詞のまとめ 助動詞＋have＋過去分詞						
6	Lesson 5 I Want to Study Robotics.	・科学について述べている文章を学習する。 [文法] 受動態のまとめ 助動詞＋受動態						
	Lesson 6 Great People I Respect	・尊敬する人について述べている文章を学習する。 [文法] 進行形・完了形の受動態 群動詞の受動態						
7	Lesson 7 Studying Is Fun!	・勉強・テストについて述べている文章を学習する。 [文法] to-不定詞の名詞的用法, 形容詞的用法 to-不定詞の副詞的用法						
	Lesson 8 What Language Do They Speak There?	・言語について述べている文章を学習する。 [文法] seen to-不定詞, It seems that … S＋V＋O(it)＋C＋to-不定詞						
課題・提出物等		課ごとの学習内容を応用したワークシートを提出してもらいます。 毎回の授業の復習をしっかりとし、英語で書く能力を身につけましょう。 また、実際にEメールや手紙を英語で書いてもらいます。休日課題には 総合演習問題を準備しています。	自己評価の該当する欄に○印をつける。 1 大変良くできた(80～100%) 2 できた(60～79%) 3 あまりできなかった(30～59%) 4 まったくできなかった(0～29%)					
1学期の学習状況 評価方法		定期考查, 単元テスト, 課題の提出状況, 出席状況, 授業への取り組み等を総合的に 判断して評価します。						

6 評価の観点の趣旨

A	関心・意欲・態度	・「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいるか。 ・さまざまな工夫を加えながら、自主的・主体的に取り組んでいるか。
B	表現の能力	・既習の言語材料を活用して、自分の意見や考えを正しく書くことができているか。 ・目的に応じて、意見や考え、用件を述べるができているか。
C	理解の能力	・環境、人権、比較文化などのさまざまな教材を理解し、そのテーマについて考察し把握できているか。
D	言語や文化についての知識・理解	・家庭、学校、社会における日常生活習慣や英語圏の文化やマナーについて知り、肯定的な理解ができているか。

7 評価のポイント

1 身近な話題について英語を用いて書いて表現できるか。	A B C D
2 辞書に慣れ親しみ、疑問を解決するために積極的に活用しているか。	A C
3 単語や熟語・英文法を理解し、身につけているか。	B C D
4 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解することができるか。	A C
5 英語を用いた発問に対して、適切に応答することができるか。	A B C
6 異なる文化や考えを理解し、尊重しようと努めることができるか。	A C D

8 学習上の留意点

① 予習について

英語の授業は、予習を前提に進めていきます。授業の前に必ず本文に目を通し、未知の単語の意味を調べておきましょう。

② 授業について

予習をしっかりとしていれば、授業は復習の場となります。授業では、実際に英作文をすることが中心になります。さまざまな場面を想定して、英語で書いて表現する力を身につけましょう。

③ 復習について

習ったことはその日のうちに復習します。各レッスンの文法事項をしっかり定着させ、応用英作できるようになるまで反復練習をしてください。十分に復習がなされていれば、英語の字力は定着し、考査則にめまわすこともありません。

予習・復習で毎日一時間は英語の勉強時間を確保してください。

④ 課題について

平日、または休日に出された課題は必ず提出期限を守って提出すること。

⑤ 辞書を読む

単語の意味を調べるためだけに辞書を使うのではなく、例文や語法の説明を読むことが大切です。

⑥ 授業以外の英語学習

テレビや雑誌、インターネット上など身の回りに英語学習の教材はあふれています。またALTとの会話は生きた英語や異文化に触れる絶好の学習チャンスです。積極的に話しかけてください。

9 終わりに

高校一年生では「コミュニケーション英語Ⅰ」を学びましたが、「外国語の一つである英語」は“International Englishes”，“Global English”とも最近では呼ばれています。ボーダーレス化する国際情報化社会において、多くの他民族との意思疎通を図る「共通言語」、「共通補助語」としての英語の役割は、好き嫌いを乗り越えて益々重要視されてきています。

大学入試または就職試験の必修科目として、英語を課しているところは非常に多いです。英語力の向上は、高校卒業後の進路決定に大きな影響を与えます。継続的に学習しましょう。